

日本語教育人材に求められる資質・能力の整理(素案)

基本的な資質・能力 日本語教育人材に 求められる	日本語教育人材に求められる基本的な資質・能力として、次のような点が重要である。 日本語を正確に理解し的確に運用できる能力を持っていること。 コミュニケーションを通じてコミュニケーションを学ぶという日本語教育の特性を理解していること。 言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること。 広く言語や文化に対して深い関心と鋭い感覚を有していること。 国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際的感覚と人間性を備えていること。 自らの職業の専門性とその 社会的意義 についての自覚と情熱を有し、 常に学び続ける態度を有していること。 日本語教育を通じた人間の成長と発達に対する深い理解と関心を有していること。						
	日本語指導者 養成段階	知識	技能	態度	【1. 言語や文化に関する知識】 【2. 日本語の教授に関する知識】 【3. 日本語教育の背景をなす事項に関する知識】	【1. 言語や文化に関する知識】 (1) 外国人施策や世界情勢など、外国人や日本語教育を取り巻く社会状況に関する一般的な知識を持っている。 (2) 個々の学習者の来日経緯や学習課程等を理解し、学習者に応じた適切な教育内容・方法を選択する上で、必要となる知識を持っている。 (3) 言語・文化の違いを理解し、よりよい教育実践につなげるための知識を持っている。 【2. 日本語の教授に関する知識】 (1) 学習者の学習過程を理解し、学習者に応じた適切な内容・教材・方法を選択する上で必要となる知識を持っている。 (2) 学習者の日本語能力を測定・評価する上で必要となる知識を持っている。 (3) 異なる文化背景を持つ学習者同士が協働し、主体的に学ぶ合う態度を養うための異文化教育能力やコミュニケーション能力を育てるために必要な知識を持っている。 (4) 自らの授業をはじめとする教育活動を客観的に分析し、より良い教育実践につなげるための知識を持っている。 【3. 日本語教育の背景をなす事項に関する知識】 (1) 外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識、日本語の構造に関する知識、そして言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を持っている。 (2) 国や地方公共団体の多文化共生及び国際協力、日本語教育施策に関する知識を持っている。	【1. 教育実践のためのスキル】 (1) 学習者のニーズや背景、日本語能力等を的確に把握・分析し、学習者に応じた適切な教育内容・教授方法を選択することができる。 (2) 日本語教育プログラムの策定、授業や教材等を分析する能力があり、それらの総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力を持っている。 (3) 個別指導やグループ・クラスなど多様な授業形態に対応できる実践力を持っている。 (4) 学習者に対する実践的なコミュニケーション能力・異文化間コミュニケーション能力を持っている。 (5) 自らの授業をはじめとする教育活動を客観的に分析し、振り返りを行うことで、より良い教育実践につなげていくことができる能力を持っている。 (6) 学習者に応じた効果的な教具・教材を活用または作成し、授業実践に生かすことができる。 【2. 学習者の学ぶ力を促進するスキル】 (1) 学習者の日本語学習上の問題を解決するために、適切な評価・フィードバックを行う能力を持っている。 (2) 異なる文化背景を持つ学習者が多様なリソースを活用し、教育実践に必要な教育能力を持っている。 【3. 社会とつながる力を育てるスキル】 (1) 学習者の理解に応じて日本語を分かりやすくコントロールする能力を持っている。

活動分野別の日本語指導者(初任)に求められる資質・能力の整理(素案)

	知識	技能	態度
生活者としての外国人	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域における外国人の背景・状況・特徴等について正しく理解している。 (2) 学習者の多様な背景と、ライフステージにおいて必要となる日本語が異なることを理解している。 (3) 学校型と地域型の日本語教育の違いについて正しく理解している。 (4) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標、内容方法についての知識を持っている。 (5) 地域日本語教育における多様な学びと、指導者・補助者の役割や連携体制について理解している。 (6) 「生活者としての外国人」を取り巻く地域の実情や課題を理解し、地域の教育リソースを活用するための知識を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。 (2) 学習者のニーズ分析、レベルチェックが適切に実施できる。 (3) 地域における学習者の背景・属性を理解し、地域のリソースを活用し、ニーズやライフステージに応じた効果的な日本語教育を実践することができる。 (4) 日本語指導力評価を用いて、振り返りを行い、指導力の向上やプログラムの点検・改善を行うことができる。 (5) 日本語教育の成果をポートフォリオなどで可視化し、学習者の家族や関係者への理解に努めることができる。 (6) 活動の内容や学習者の様子、教室活動の成果と課題について記録し、関係者間で共有を図るとともに、振り返りを行い、指導の改善を行う能力を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学習者が自ら学ぶ力を育み、学びに寄り添う態度を持っている。 (2) 学習者の自立を支援し、主体的に学び合う力を育てようとする態度を持っている。 (3) 学習者が人とつながり、ネットワークを構築する力を育てる態度を持っている。 (4) 地域社会や多様な機関と連携・協力し、生活者としての外国人が自立的に生活するための、エンパワーメントとしての日本語教育を意識している。
日本語指導者(活動分野別：初任) 留学生(進学準備)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 高等教育機関において専門分野を学習する上で、必要となる日本語を指導するために必要な知識を持っている。 (2) 留学生に対するキャリア支援の視点とビジネスジャパニーズを指導するために必要な知識を持っている。 (3) 留学生の進学や就職に必要な試験や、その内容を指導するために必要な知識を持っている。 (4) 日本の高等教育機関で必要となる日本語によるIT活用のための指導に必要な知識を持っている。 (5) 学習者が他者と協働し、自立的かつ主体的に学んでいけるようにするため、課題解決型授業を実践するために必要な知識を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 高等教育機関において専門分野を学習する上で、必要となる日本語能力(アカデミックジャパニーズ)を身につけるための効果的な指導ができる。 (2) 学習者の自立学習を促進するために課題解決型の教育実践を行うことができる。 (3) IT技術等を活用した効果的な教育実践ができる。 (4) 20名規模のクラスの管理・運営を行うことができる。 (5) 学習者の学びを促進するファシリテーションができる。 (6) ビジネスジャパニーズを効果的に指導することができる。 (7) 指導計画に基づき実践した授業や教育活動を振り返り、改善のための検討ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) チームティーチングについて理解し、講師間で連携・協力を図る態度を持っている。 (2) 学習者の成長を促す態度、まなざしを持っている。 (3) 留学生を取り巻く社会状況の変化に関心を持っている。 (4) 学校外の地域社会や他者とのつながりを持つことの意味を理解し、機会提供に努める態度を有している。 (5) 日本語学習だけでなく、進路選択に関しても担当者と連携し、多様な関係者とともに関わり、指導する態度を持っている。
外国人児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「特別の教育課程」など、学校における児童生徒に対する日本語教育を含む学習支援の仕組みや体制に関する知識を持っている (2) 日本の教育制度及び各学校の組織、多文化状況や教育方針や取組を理解している (3) 就学前後において外国人児童生徒及び保護者に必要となる情報及び支援制度等に関する知識を持っている (4) 児童生徒が日本語を獲得することで得られる力(資本)を理解している (5) 児童生徒の学校において必要となる日本語の力をどのように捉えるかについて知識を持っている (6) 子供の言語発達及び言語の習得過程に関する知識を持っている (7) 児童生徒の発達段階に応じた効果的な指導を実践するための知識を持っている 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「特別の教育課程」を理解し、カリキュラムに即した適切な指導を行うことができる (2) 児童生徒の能力や状況、指導現場のリソースに応じて適切な学習を設計することができる (3) 児童生徒の日本語を含む言語力や、教科についての力を把握することができる (4) 年齢や教育歴、文化的背景に応じて、学習者に効果的な教材・教具を作成することができる (5) 教室外での学びに関連付けて教えることができる (6) 児童生徒の発達段階に応じた効果的な指導を実践することができる (7) 日本の教育制度及び各学校の組織、多文化状況や教育方針や取組を理解し、その中に自身の役割を位置づけ、指導・支援の内容・方法を決定・実施することができる 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校教育の制度と自身の役割を正しく理解し、学校の教員や多様な支援者と円滑に協働できる (2) 児童生徒に関わる担当教員、学校関係者や保護者、地域関係者と協働し、効果的に日本語学習支援を行うためのコミュニケーション能力を持っている (3) 複雑な事情を抱える多文化家族の背景を理解し、寄り添う態度を持っている (4) 日本語指導の現場だけでなく、学校や地域、家庭など多様な角度から児童生徒の日本語の使用や習得状況を捉えようとする態度を持っている (5) 児童生徒や保護者に対する指導者としての権威性を常に認識し、自身の規範を問い直す態度を持っている

日本語教育人材に求められる資質・能力の整理(素案)

日本語指導者	中堅	<p>【1. 言語や文化に関する知識】</p> <p>(1)日本語教育プログラムを策定する上で必要となる知識を持っている。</p> <p>(2)評価に対する専門性を有し、教育機関や教育プログラム、教育活動、日本語能力について評価を適切に実施し、点検・改善を行うための専門的な知識を持っている。</p> <p>(3)国内外の外国人の状況や日本語教育施策に関する最新の知識を持っている。</p> <p>【2. 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4)学習者の日本語能力を把握・分析し、適切な学習指導を行うための知識を持っている。</p> <p>(5)教材開発・編集・改善に必要な知識を持っている。</p> <p>【3. 日本語教育の背景をなす事項に関する知識】</p> <p>(6)教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教育環境のデザインができる。</p> <p>(7)日本語教育機関や組織が円滑に運営されるよう、組織マネジメントに関する基礎的な知識を持っている。</p> <p>(8)日本語指導者(初任)及び日本語指導補助者を育成する上で必要となる知識を持っている。</p>	<p>【1. 教育実践のためのスキル】</p> <p>(1)学習者及び関係者のニーズを踏まえ、日本語教育プログラムを策定し、運営することができるとともに、学習者の属性やニーズ等の変化に応じて臨機応変にプログラムを調整する能力を持っている。</p> <p>(2)日本語教育プログラムあるいはコースの中長期的な指導計画が立てられる。</p> <p>(3)コース・プログラムの目標に応じた学習者の学習時間、到達目標に合致した教材を選択・作成できる。</p> <p>【2. 学習者の学ぶ力を促進するスキル】</p> <p>(4)学習者の日本語力を適切に把握・分析し、効果的な学習方法や教材等について多様な選択肢を提示することができる。</p> <p>【3. 社会とつながる力を育てるスキル】</p> <p>(5)日本語教育プログラムを実施し、点検・評価を行い、改善を図ることができる。</p> <p>(6)日本語教育現場における課題、自らの専門性における課題を把握し、関係者との協働により課題解決に取り組むことができる。</p> <p>(7)日本語指導者(初任)及び日本語指導補助者を育成・研修することができる。</p> <p>(8)日本語教育機関や組織が円滑に運営されるよう、組織マネジメントを行う能力を持っている。</p>	<p>【1. 言語教育者としての態度】</p> <p>(1)日本語教育の専門家(中堅)として、自らの職業の意義についての自覚と情熱を有し、自身の指導や対応について客観的に振り返り、常に学び続ける姿勢を持っている。同時に、日本語指導者(養成段階)や日本語指導補助者に対しても、振り返りや学びの機会を積極的に提供しようという態度を持っている。</p> <p>【2. 学習者に対する態度】</p> <p>(2)問題を抱えている学習者や指導者に対して、ともに課題解決に向かう態度を持っている。</p> <p>【3. 社会に対する態度】</p> <p>(3)教育実践や課題、成果等を記録・保存し、振り返りや学びに活用しようとする態度を持っている。</p> <p>(4)異なるピリーフを持つ関係者と円滑な関係を構築しながら、協力的にプログラムを運営していく態度を持っている。</p> <p>(5)多様な背景を持つ日本語教育人材を理解し学び合い、育ち合う態度を持っている。</p>
		<p>【1. 言語や文化に関する知識】</p> <p>(1)日本語教育プログラムを策定する上で必要となる知識を持っている。</p> <p>(2)評価に対する専門性を有し、教育機関や教育プログラム、教育活動、日本語能力について評価を適切に実施し、点検・改善を行うための専門的な知識を持っている。</p> <p>(3)国内外の外国人の状況や日本語教育施策に関する最新の知識を持っている。</p> <p>【2. 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4)学習者の日本語能力を把握・分析し、適切な学習指導を行うための知識を持っている。</p> <p>(5)教材開発・編集・改善に必要な知識を持っている。</p> <p>【3. 日本語教育の背景をなす事項に関する知識】</p> <p>(6)教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教育環境のデザインができる。</p> <p>(7)日本語教育機関や組織が円滑に運営されるよう、組織マネジメントに関する基礎的な知識を持っている。</p> <p>(8)日本語指導者(初任)及び日本語指導補助者を育成する上で必要となる知識を持っている。</p>	<p>【1. 教育実践のためのスキル】</p> <p>(1)学習者及び関係者のニーズを踏まえ、日本語教育プログラムを策定し、運営することができるとともに、学習者の属性やニーズ等の変化に応じて臨機応変にプログラムを調整する能力を持っている。</p> <p>(2)日本語教育プログラムあるいはコースの中長期的な指導計画が立てられる。</p> <p>(3)コース・プログラムの目標に応じた学習者の学習時間、到達目標に合致した教材を選択・作成できる。</p> <p>【2. 学習者の学ぶ力を促進するスキル】</p> <p>(4)学習者の日本語力を適切に把握・分析し、効果的な学習方法や教材等について多様な選択肢を提示することができる。</p> <p>【3. 社会とつながる力を育てるスキル】</p> <p>(5)日本語教育プログラムを実施し、点検・評価を行い、改善を図ることができる。</p> <p>(6)日本語教育現場における課題、自らの専門性における課題を把握し、関係者との協働により課題解決に取り組むことができる。</p> <p>(7)日本語指導者(初任)及び日本語指導補助者を育成・研修することができる。</p> <p>(8)日本語教育機関や組織が円滑に運営されるよう、組織マネジメントを行う能力を持っている。</p>	<p>【1. 言語教育者としての態度】</p> <p>(1)日本語教育の専門家(中堅)として、自らの職業の意義についての自覚と情熱を有し、自身の指導や対応について客観的に振り返り、常に学び続ける姿勢を持っている。同時に、日本語指導者(養成段階)や日本語指導補助者に対しても、振り返りや学びの機会を積極的に提供しようという態度を持っている。</p> <p>【2. 学習者に対する態度】</p> <p>(2)問題を抱えている学習者や指導者に対して、ともに課題解決に向かう態度を持っている。</p> <p>【3. 社会に対する態度】</p> <p>(3)教育実践や課題、成果等を記録・保存し、振り返りや学びに活用しようとする態度を持っている。</p> <p>(4)異なるピリーフを持つ関係者と円滑な関係を構築しながら、協力的にプログラムを運営していく態度を持っている。</p> <p>(5)多様な背景を持つ日本語教育人材を理解し学び合い、育ち合う態度を持っている。</p>

<p>日本語教育コーディネーター</p>	<p>国や地域内の外国人の状況や、日本語教育に対するニーズ等を把握している 日本語教育に役立つリソースの活用方法や、必要な情報へのアクセス方法について理解している 当該地域で学習者が直面すると考えられる課題の解決方法に関する知識を持っている 日本語教育プログラムを実施するに際し、必要となる組織マネジメント及び事業管理に関する基本的な知識を持っている 人材育成に関する基本的な知識を持っている 外国人に関する法制度について理解している</p>	<p>日本語教室と地域の学校・企業等をつなぐ活動・企画をコーディネートできる 日本語を通じた社会参加につなげられるよう、地域関係者と協働して活動をデザインできる 管理職としてのリーダーシップ能力を持っている マネジメント能力、組織管理能力を持っている 緊急時における危機管理能力を持っている 外国人施策、教育行政や日本語教育事情等に関する情報収集力を持っている 関係する諸機関や関係者との調整・交渉能力を持っている</p>	<p>管理職としての立場と役割を認識し、前向きに取り組む意欲を有している 前向きに感情を処理する態度を有している</p>
<p>日本語指導補助者</p>	<p>個々の学習者の来日経緯や学習過程を理解し、日本語の学習動機に対する理解がある 日本語や日本文化、社会、多文化共生に対する一般的な知識・理解がある 日本語の構造に関する基本的な知識を持っている 異文化理解や異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力に関する基礎的なチリ機・理解がある 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標を理解している</p>	<p>多様な文化背景を持つ学習者に接する上で必要となるコミュニケーション能力を備えている 学習者に対し、日本語学習の動機付けをすることができる 学習者の理解に応じて自身の日本語をコントロールして使うことができる 日本語指導に有効な教材や教具に関するリソースを活用することができる 日本語教育コーディネーターや日本語指導者の指導・助言を受けながら、学習者に対する日本語指導を実践することができる</p>	<p>学習者が必要とする日本語や地域社会・文化に関する知識を、自ら学ぶ力を育み、その学びに寄り添う姿勢を持っている 学習者の背景や現状を理解しようという姿勢を持っている 学習者の言語や文化を尊重し、対等な立場で接する姿勢を持っている 学習者や支援関係者などの関係者と良好な対人関係を築こうという姿勢を持っている 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持っている</p>

日本語教育人材の整理

本小委員会の検討において、「日本語教育人材」とは、各活動分野で日本語教育コーディネーター、日本語指導者、日本語指導補助者等として日本語教育に携わる人材を指す。

日本語教育人材の整理	日本語指導者	<p>中堅段階</p> <p>日本語教育に関する専門的な教育を受け、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能及び十分な経験を有し、日本語指導者としての高度な専門性を持つ者。国内外の日本語教育の現場で学習者に応じた日本語教育プログラムを策定し、体系的・計画的に日本語指導を行う者。</p> <p>初任段階（活動分野別）</p> <p>日本語教育に関する専門的な教育を受け、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能を有し、かつ活動分野や学習対象者別に応じて求められる日本語指導者としての専門性を持つ者。国内外の日本語教育現場で定められた専門日本語教育プログラムに基づき、体系的・計画的に日本語指導を行う者。</p> <p>養成段階</p> <p>日本語教育に関する専門的な教育を受け、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能を有し、日本語指導者としての専門性を持つ者。国内外の日本語教育現場で定められた日本語教育プログラムに基づき、体系的・計画的に日本語指導を行う者。</p>
	日本語教育コーディネーター	<p>日本語教育に関する専門的な教育を受け、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能、学習者に対する十分な知識及び経験を有し、日本語指導者及び日本語教育コーディネーターとしての高度な専門性を持つ者。国内外の日本語教育の現場で次に掲げる事項を行う者</p> <p>日本語教育プログラムの策定・実施運営及び改善 日本語指導者及び補助者に対する指導・助言・管理 日本語指導者及び補助者の養成・研修の企画立案 多様な機関と連携・協働し日本語学習者の学びや日本語教育を通じた社会参加を促進するための活動のデザイン</p>
	日本語指導補助者	<p>日本語指導者や日本語教育コーディネーターの指導・助言の下、日本語学習者に日本語を指導したり、日本語学習を促進する役割を担う者。（交流を活動目的とする者は含まない。）</p>
<p>ここで挙げる日本語教育人材は現在多様な分野で日本語教育に関わる人々全てを網羅するものではない。地方公共団体が実施している日本語教室においては、「日本語を教える/学ぶ」こと以外にも多くの住民がボランティアとして関わることで、日本語教室が外国人にとって地域社会との接点となり、住民間がつながる場となっており、そこに関わる人材は広範であり多様である。</p>		

参考 「日本語教育のための教員養成について」平成12年3月30日 日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議より

日本語教員として望まれる資質・能力	<p>今後の日本語教員養成における新たな教育内容を提示するに当たって、日本語教員に求められる資質・能力として、次のような点が重要である。</p> <p>ア．日本語教員として基本的な資質・能力について 日本語教員として望まれる資質・能力として、まず基本となるのは、日本語教員自身が日本語を正確に理解し的確に運用できる能力を持っていることである。その上で、これからの日本語教員の資質・能力として、次のような点が大切であると考えられる。</p> <p>(ア)言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること。 (イ)日本語ばかりでなく、広く言語に対して深い関心と鋭い言語感覚を有していること。 (ウ)国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際感覚と人間性を備えていること。 (エ)日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性とその意義についての自覚と情熱を有すること。</p> <p>イ．日本語教員の専門能力について 次に、日本語教育の専門家として、個々の学習者の学習過程を理解し、学習者に応じた適切な教育内容・方法を判断し、それに対応した効果的な教育を行うための、次のような能力を有していることが大切である。</p> <p>(ア)言語に関する能力 外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識、対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識、そして原語使用や言語発達及び原語の習得過程等に関する知識があり、それらの知識を活用する能力を有すること。 (イ)日本語の教授に関する知識・能力 過去の研究成果や経験などを踏まえた上で、教育課程の編成、授業や教材等を分析する力があり、それらの総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力を有すること。 (ウ)その他日本語教育の背景をなす事項についての知識・能力 日本と諸外国の教育制度や歴史・文化事情に関する知識や、学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力を有すること。</p>		
知識・技能・態度への分類	<p>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識 対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識 言語使用に関する知識 言語発達に関する知識 言語の習得過程に関する知識 日本の教育制度に関する知識 日本の歴史・文化事情に関する知識 諸外国の教育制度に関する知識 諸外国に歴史・文化事情に関する知識</p>	<p>日本語を正確に理解し的確に運用できる能力 言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力 外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識、対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識、言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力 学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力 教育課程の編成、授業や教材等を分析する能力 教育課程の編成、授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力</p>	<p>日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している 鋭い言語感覚を有している 国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際感覚を有している 国際的な活動を行う教育者として、豊かな人間性を備えている 日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性を有している 日本語教育の専門家として、自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している</p>